

令和4年度生涯学習部研修会報告（東濃地域）

日時：令和4年12月18日（日） 時間：10:00～13:00

形式：WEB研修会（ZOOMを使用）

テーマ：検査データを理解して安全な早期離床につなげよう

講師：鈴木啓介先生（岐阜保健大学 リハビリテーション学部 理学療法学科）

【スケジュール】

10:00～10:05 アナウンスと講師紹介

10:05～11:45 検査値の見方について

11:50～13:00 炎症、貧血の負荷量判断と症例

【内容】

新型コロナウイルス感染拡大防止により、今年も完全オンラインでの研修会となりました。今回は「検査データを理解して安全な早期離床につなげよう」というテーマで岐阜保健大学リハビリテーション学部理学療法学科の鈴木啓介先生をお招きしてご講演頂きました。

今回、臨床の現場にて安全な離床、少しでも積極的なリハビリの提供の一つの評価や見方の手段として鈴木先生にご講義いただきました。先生も毎回、おっしゃっていましたが、検査データはあくまでも一つの離床や状態把握の目安であり。フィジカルアセスメントや多職種の情報を中心に、離床や安全管理をしていく必要の確認をした上で、ひとつのきっかけとして検査データの理解や見方を大変分かりやすく丁寧にお話して頂きました。

主として臨床で多くみられる炎症と貧血について実際の症例や事例も踏まえて説明して頂きました。特に炎症の見極めと負荷量の判断ではWBC、CRPの時系列のお話しからWBCの中でも注意し見ていく好中球（桿状核球）を含めた炎症の重症度の判断を講義して頂き、よりWBC、CRPの数値のみでの判断でなく離床やリハビリ内容への判断基準がより明確になったと感じました。また炎症でもその他臓器やインスリン、尿との関係性なども含めて講義して頂き、より臨床時の評価や方法の幅の広さにもつながったと感じています。また症例では新人スタッフからも関わる大腿骨頸部骨折も含めてあげていただき、新人からベテランスタッフまで幅広く実際の臨床に照らし合わせて介入できたと感じました。また同じ理学療法士でここまで検査データを理解し、臨床や疾患に落とし込んで研究してみえる鈴木先生には大変感銘を受け、理学療法士としての幅の広がりも感じる事ができた大変有意義な3時間になったと感じています。

講演中含め受講者から質問を多く頂き、アンケートの結果は満足度が高く、非常に充実した研修会になったと考えます。最後に、貴重な時間を割いてご講演頂きました鈴木啓介先生をはじめ、賛助会員の皆様、本研修会に携わっていただいた生涯学習部スタッフの皆様に心より御礼申し上げます。

東濃地域生涯学習部 加藤 祐亮